次年度に向けての取組み目標と具体的な取組み方策

令和２年度取り組み目標と方策			
評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[1] 教育活動 （教務）	･授業力の向上 ･真摯で積極的な勉学姿勢の確立	・朝課外，夜課外，放課後課外，そしてよる学習の精選を図り，スタディサプリとの連携を模索する。 ・共通テストに対応したカリキュラムの運営を通じて，真の学力，教養を身に付けさせる。 ・理系インタークラスも２年目として，具体的にコンテストなどに応募をしていく。 ・教師一人ひとりの授業に対する研修機会を設け，授業力の向上を図る。	・毎週の教科主任会議を通じて精選を図る。 ・授業力を改善するための教科内研修の活性化
[2] 教科指導 （各教科）	･前期課程の基礎学力の向上 ･新型センター試験への対応 ・英語実践力の強化	・全国学力学習状況調査を一つの目標に，新しい学力観に根差した授業の展開や課題の作成などに力を注ぐ。 ･後期課程においては，二転三転した共通テストの情報をいち早く分析し，対応していくことが急務である。 ・リスニングの得点比率の増加を追い風として，本校の実践的英語力の向上を図るため，テキストから見直す。同時に，native 教員の増員を含め取り組んでいく。	新任教員研究授業の実施 教科主任会を毎週実施 定常的な教員研修
[3] 学校生活への配慮 （生徒指導）	･いじめの撲滅 ･足並みの揃った生徒指導の実行 ･マナー指導	･いじめは，仲のいいグループ内で生じやすい現状を把握し，教員研修を通じて，いじめの芽の早期発見に努めるとともに，保護者との協力体制を構築していく。 ･週報の在り方を再検討し，より現場に即した方法で，足並みをそろえた指導が適時実行できるようにつとめる。。 ･朝の挨拶運動を活性化させるとともに，学校の様々な活動結果を共有することで，帰属意識を高め，本校性としての在り方を共有していく。	･調査年２回実施。 ･週報などで全校に周知 ･月例指導を含め年間計画に沿って随時実施する。
[4] 生徒会・部活動	･学校行事の充実 ･部活動の活性化	･年々，内容が充実している生徒主体の学校行事をさらに地域や外部にも発信していく。。 ･運動部４０％，文化部２０％の加入を目指す。特に前期課程ではより部活動への加入者を増やし，居場所づくりをしたい。	･定例委員会の実施

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[5] 進路指導	･三大進路の確立 日本大学進学 難関大学進学 海外大学進学 特に国立大学合格者を増やす	前期課程のうちから，卒業生講演会，大学見学会など進路意識を醸成する。 保護者と教師の会主催の大学見学会や進路講演会を通じて，保護者と教師が同じベクトルで子供たちの進路獲得に力を合わせていく。 国立大学の合格者増のため，教員配置を見直し，５教科で勝負できる環境を整える。	･進路指導の基本方針を早期に教員に示し，学年の計画と連動させながら実施していく。
[6] 保 健・衛生	･適切な健康診断の実施 ･健康管理の支援 ･教育相談の活用	･子供たちの健康を維持するために，健康診断とともに体力測定の結果を踏まえた体力向上の施策を実施する。 ･複雑化するネット社会の中で，多方面から心に影響を受ける子供たちの実情を見据えて，教育相談だけでなく，教員がしっかりと子供たちの姿を捉える能力を育成する。また，生活実態調査を有効活用する。	･年度当初より取組む。 ・いじめ防止対策委員会で情報を共有する。 ・生活アンケートの実施
[7] 図書	･入試資料の刷新と充実 ･図書館利用率の向上	･生徒の受験傾向を捕らえ，新学力型入試に対応した参考書等の充実を図る。 ・生徒の教養を向上させる取り組みとして，専門的な内容に踏み込む書籍の充実を図る。 ・library 委員会だけでなく，各学年の発達段階に応じた読書指導を展開していく。 ･利用頻度の高い新書および時事関連資料を増強し提供する。	･新規の購入については，時期や出版状況を確認しながら順次取り組んでいく。 ・活性化した図書委員の活動を継続発展させる。
[8] 広報	･入試の検討 ･生徒とのふれあいを重視した学校説明会 ･情報発信の徹底	・英語，理数，読解の３つのリテラシーを図る２１世紀型の入試を再編し，しっかりと本校の入試に位置付けていく。同時に適性型入試の信頼度を高め，地域で最も頼りになる入試としての地歩を固める。 ・参加型の説明会を実施し，本校に来校する保護者生徒に選ばれる学校として，教員，TA 生徒などが活気のある姿を提示していく。 ・相変わらずメディアでの露出が少なく，大規模な情報発信を模索していく。	･年度当初より取組む。 ･参加動向を見越して，早期に準備する。 ・年度当初より実施
[9] 管理運営	･教育方針の浸透 ･校務分掌機能の円滑化	・校長の指示がしっかりと全教員に伝わるように組織力の強化に努める。 ・組織を見直し，若い力や女性教員の力が発揮しやすい組織づくりをすることで，チームが一丸となるよう努める。	･年間を通じて，計画的に行う。

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[10] **庶務**	入学式，卒業式，護者と教師の会等の総会，奨学金環境美化などは従来以上に推進 ･防災，安全，危機管理などの強化 ･避難訓練の充実 ･同窓会活動の活性化	・入学式，卒業式の運用について，日本大学，学園の他校との連携を含め，よりよい形式を模索する。 奨学金については，生活環境だけに留まらない新たな形式を模索する。 ･生徒指導と連携し，保護者と学校の連絡体制を緊密なものにして，事故などに際し，様々な下校状態に即座に応できるようにする。 ･避難訓練を複数回実施する。 ･同窓会の在り方，活用方法を含め新たなステージに向かうための施策を講じる。	・ 年度当初より，可及的速やかに取り組む。 オープンスクールと連動させる